St. Luke's International University Repository

# Development of a graduate program in women's health and midwifery education and utilizing of international exchange agreement.


| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2007-12-26<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 江藤, 宏美, 堀内, 成子, 森, 明子, 有森, 直子, 片岡, 弥恵子, 桃井, 雅子, 小陽, 美紀, 土屋, 円香<br>メールアドレス:<br>所属: |
|---|---|
| URL | http://hdl.handle.net/10285/495 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

報　告

# 大学院ウィメンズヘルス・助産学専攻の開設と国際交流協定の活用

江藤　宏美[1)]　堀内　成子[1)]　森　明子[1)]
有森　直子[1)]　片岡弥恵子[2)]　桃井　雅子[1)]
小陽　美紀[1)]　土屋　円香[1)]

# Development of a Graduate Program in Women's Health and Midwifery Education and Utilizing of International Exchange Agreement

Hiromi ETO, C.N.M., D.N.Sc.[1)]　Shigeko HORIUCHI, C.N.M., D.N.Sc.[1)]　Akiko MORI, C.N.M., M.N.S.[1)]
Naoko ARIMORI, C.N.M., D.N.Sc.[1)]　Yaeko KATAOKA, C.N.M., D.N.Sc.[2)]　Masako MOMOI, C.N.M., D.N.Sc.[1)]
Miki KOYOH, C.N.M., M.N.S.[1)]　Madoka TSUCHIYA, C.N.M., B.S.[1)]

**[Abstract]**

St. Luke's College of Nursing（SLCN）has expanded its graduate program by adding a *Women's Health and Midwifery* course in April 2005. There were major challenges both within the college and with other institutions in developing this new program. There are two courses, one for academic researchers and one for advanced practitioners. Permission to implement the program was granted with the understanding that, in addition to completing the master's course, those advanced practitioners who wish to qualify to sit for the national midwifery exam must also enroll in the specified courses necessary to take the exam.

In the interest of developing midwifery education in the master's program, in August 2004 we invited faculty from our sister school, Oregon Health & Science University（OHSU）School of Nursing, and held a seminar. This was easily accomplished due to the International Exchange Agreement between OHSU and SLCN. The seminar included the introduction and comparison of the midwifery programs at each institution, an educational lecture, observing training at the college, and visiting a birth center.

In February of the following year we visited OHSU. In order to prepare for the elective course, “ International Cooperation ”, several institutions were visited where student midwives were undergoing practical training. In addition, meetings with researchers and licensed midwives took place.

Our vision of the future includes nurturing capable and talented practitioners who will contribute to improving the health of mothers and children through this new program. We will strive to deepen our ties to our sister schools and build meaningful relationships.

**[Key words]** midwifery education, advance practice, master's program,
**[キーワーズ]** 助産教育，上級実践者，修士課程，
International exchange agreement, graduate program
国際交流協定，大学院教育

1）聖路加看護大学　母性看護・助産学　St. Luke's College of Nursing, Maternal Infant Nursing & Midwifery
2）聖路加看護大学　看護実践開発研究センター　St. Luke's College of Nursing, Research Center for Development of Nursing Practice

2005年11月21日　受理

**［抄　録］**

聖路加看護大学大学院（修士課程）に，ウィメンズヘルス・助産学専攻を増設し，2005年４月より新しい教育をスタートした。創設に当たっては，学内外での調整と，事前相談を重ねた。ウィメンズヘルス・助産学は「研究者コース」と「上級実践コース」があるが，後者のコースでは国家試験受験資格を得ようとするものは，修士課程での修了要件のほかに，助産師国家試験受験資格に必要な指定規則の単位数を選択履修するということで認可を受けた。

大学院での助産教育を考える上で，姉妹校であるオレゴン・ヘルスサイエンス大学（OHSU）からファカルティを2004年８月に招聘し，セミナーを開催した。OHSU と本校のカリキュラムの紹介・比較と教育講演，演習と実習施設の見学を行った。

また，2005年２月に OHSU を訪問し，選択科目の「国際協働論」の開講準備のために，助産学生の実習施設を中心に複数の施設を視察し，リソース・パーソンとしての研究者たちと会合，また，助産師同士の交流を行った。

今後の展望として，実践家としての実力を備えた専門職の育成と，国際母子保健の向上に貢献できる人材の育成を目指し，姉妹校と交流を深め，有機的連携を図りたい。

## Ⅰ．はじめに

2005年４月より聖路加看護大学大学院看護学研究科(修士課程）は，看護の専門分化を進めた形で改組し，これまでの看護学専攻に加えてウィメンズヘルス・助産学専攻（定員15名）を増設し，新しい教育をスタートした。

本学の大学院教育は，看護学の研究を推進し，研究能力のある人材の育成ならびに高度な看護専門職者や看護教育者の育成を目指して，1980年に大学院修士課程看護学研究科を設置し，1988年には博士後期課程を開設した。

2003年３月に報告された大学院将来構想プロジェクト[1)]では，大学院拡充構想が示され，以下の３つが検討課題として挙げられた。１）修士課程・博士課程への社会人入学への道，２）本学教員が博士の学位を取得することへの支援体制の提案，そして，３）学部教育の助産課程を大学院修士課程で行うという構想であった。

このような流れの中で，これまで，看護学専攻の一分野であった母性看護・助産学の領域は，ウィメンズヘルス・助産学として独立した。学生はウィメンズヘルスと助産学，それぞれの目的に従って「研究者コース」と「上級実践コース」を選択することができる。「研究者コース」は，ウィメンズヘルスおよび助産学に関連したテーマで，従来のように実践を変革へと導く研究や，教育，管理，理論化を目指す。そして，「上級実践コース」は，助産について深く学び，専門職業人としての能力と助産師の国家試験受験資格を得るコースである。

大学院での学びは，自ら問い，自ら探求し，自ら実践するという試行錯誤の繰り返しであり，受動的な学びではない。決して平坦な道ではないが，得るものも大きい。教員も新たな教育的挑戦に心躍らせて，将来の母子とその家族の健康を守る担い手にふさわしい環境を創造し，提供している。

今回，新たにスタートした大学院教育（修士課程）ウィメンズヘルス・助産学専攻の創設の軌跡をたどりながら，これまでの経緯を振り返るとともに，今後の大学院での教育の方向性について展望したい。

## Ⅱ．大学院認可申請までのプロセス

大学院将来構想プロジェクトに先立って，1999年度から「助産の将来を考える会」が学内で発足し，会議を重ね，2000年５月にカリキュラム委員会で大学院での教育を進める「助産課程の将来のあり方（案)」が提出された。

元来，助産婦学校としての指定は，1962年に短期大学専攻科が助産婦学校の指定を受け，大学になってからは，1967年に助産婦学校の指定を受け，助産課程は４年次の選択科目課程として，全国で初めて設置された。以来今日まで，38年間にわたり大学看護学部に助産に関する専門科目を選択科目として位置づけて，４年次に14名の学生に教育を行ってきた[2)]。

こうした中，近年の国内における社会状況から助産師に求められる役割と機能は拡充し，教育の質向上と充実を図ることが重要視されるようになった。また，海外の助産教育の現状からも，教育期間の延長や専門性の追及，高度専門職業人としての知識や技術の修得が必須のこととして認知され始めた。

大学院将来構想プロジェクトの提案に基づいて，看護学研究科の専攻領域を，これまでの看護学専攻から助産学専攻を増設する案，あるいは，専門職大学院（助産）として新たに設置申請する案を検討した。その結果，看護学研究科のもとに，既存の看護学専攻と新規増設のウィメンズヘルス・助産学専攻の２専攻を置くことで合意し

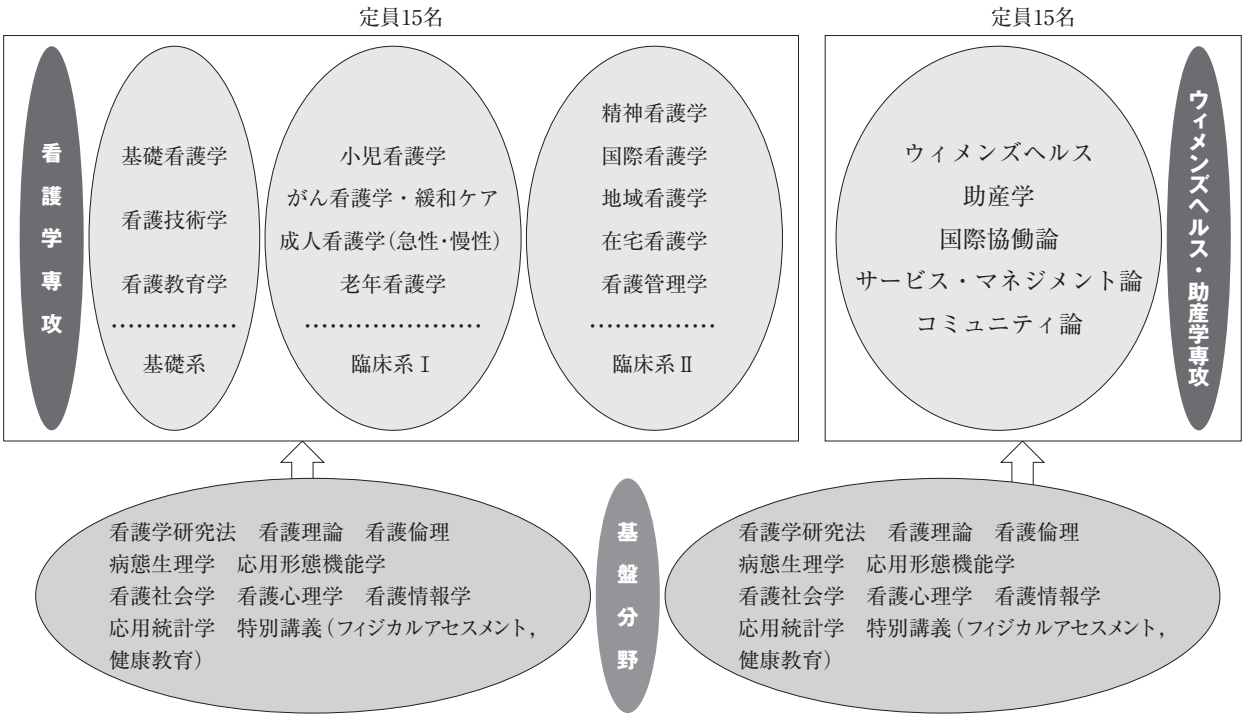



**図１　聖路加看護大学修士課程：看護学専攻とウィメンズヘルス・助産学専攻**

た。看護学研究科として，２専攻に共通の基盤となる教育課程を準備し，従来の看護学専攻で開講していた基盤分野を強化し，応用形態機能学，応用統計学，看護情報学，フィジカル・アセスメントを置いた。

さらに，既存の看護学専攻の専門分野を細分化し，より専門性（看護技術学，がん看護・緩和ケア，成人看護学（急性・慢性），国際看護学，在宅看護学）を高めるカリキュラムを整えた**（図１）**。

これまで履修モデルとして【修士論文コース】と【CNS コース】という２つの名称で呼ばれていた履修モデルは，【研究者コース】と【上級実践コース】と変更した。そのため，日本看護系大学協議会より専門看護師教育課程（CNS）の認定を受けていた６領域（がん，精神，小児，母性，地域（在宅），老年）のほかに，【上級実践コース】に看護管理や国際看護での学びの可能性が広がった。

看護学研究科ウィメンズヘルス・助産学専攻は，看護学の学部教育において母性看護学あるいは助産学を修めた者を対象に，高度な看護・助産専門家の育成，ならびに次世代育成に向けてエビデンスに基づく実践技術の開発とその検証，実践から生み出される理論の開発に従事できる研究者・実践者・教育者の育成を目指す。

大学院看護学研究科は専攻の増設予定に伴い，2002年度の理事会決定を受けて，2003年７月から文部科学省との事前相談を開始した。学内では大学院増設小委員会が設けられ，カリキュラムの作成，シラバス作成，助産師学校指定規則との対比，学則変更，科目担当者，受験生への広報活動案など検討し準備を行い，研究科委員会において組織再編の検討と学則変更を論議した。学外での交渉は，文部科学省高等教育局医学教育課，大学設置事務室，東京都（福祉保健局医療政策部）と何度も事前相談を重ねた[3)]。

事前相談，とくに大学設置審における審議で指摘された事項は，大学院修士課程での修了要件（本学は32単位）と，助産師国家試験受験資格に必要な指定規則の単位数（22単位）をどのように位置づけるかであった。最終的には，大学院修了要件とは，切り離して修めることで構想は認められた（助産師の国家試験受験資格を得ようとするものは，修了要件の単位数のほかに22単位を選択履修する）**（表１）**。

2004年９月30日に大学院看護学研究科ウィメンズヘルス・助産学専攻の増設届出が受理され，東京都より助産師学校に指定される[4)]。2005年度入学生より看護学部での４年次の選択科目（助産課程）を廃止することを公表して，11月に2005年度入試を実施した。

こうして，大学院での新たなウィメンズヘルス・助産学コースが開始した。ウィメンズヘルスの【研究者コース】【上級実践コース】，そして，助産学の【研究者コース】【上級実践コース】と４つの選択肢に分化した。【研究者コース】は，修了要件として２年以上在学し32単位以上を取得し，かつ必要な研究指導を受け，修士論文審査および最終試験に合格することである。【上級実践コース】の履修者は，修士論文（８単位）に相当する実習（６単位）と課題研究（２単位）を修める。助産師国家

**表１　聖路加看護大学大学院　看護研究科　ウィメンズヘルス・助産学専攻　履修モデル**

| 分野 | 授業科目 | | | 単位数 | | 履修時期 | | | | 指定規則の教育内容 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1年次 | | 2年次 | | 基礎助産学 | 助産技術診断学・ | 地域母子保健 | 助産管理 | 臨地助産学実習・実習 |
| | | | | 必修 | 選択 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 6 | 6 | 1 | 1 | 8 |
| 基盤分野 | 看護学研究法 | | | 2 | | ○ | ○ | | | | | | | |
| | 看護理論 | | | 2 | | ○ | | | | | | | | |
| | 看護倫理 | | | 2 | | | ○ | | | | | | | |
| | 病態生理学 | | | | 2 | | ○ | | | ◎ | | | | |
| | 形態機能学 | | | | 2 | ○ | | | | | | | | |
| | 看護心理学 | | 特論 | | 2 | ○ | ○ | | | | | | | |
| | | | 演習 | | 2 | | ○ | ○ | | | | | | |
| | 看護社会学 | | 特論 | | 2 | ○ | ○ | | | | | | | |
| | | | 演習 | | 2 | | ○ | ○ | | | | | | |
| | 応用統計学 | | | | 2 | ○ | | | | | | | | |
| | 看護情報学 | | | | 2 | | | ○ | | | | | | |
| | フィジカルアセスメント | | | | 2 | | ○ | | | | ◎ | | | |
| | 特別講義 | | | | 1 | | ○ | | | | | | | |
| 専門分野 | 助産学 | 助産学 | 特論Ⅰ | | 2 | ○ | | | | | | | | |
| | | | 特論Ⅱ | | 2 | | ○ | | | | | | | |
| | | | 特論Ⅲ | | 2 | ○ | | | | ◎(1) | ◎(1) | | | |
| | | | 特論Ⅳ | | 2 | ○ | | | | | ◎ | | | |
| | | | 特論Ⅴ | | 2 | | ○ | | | ◎(1) | ◎(1) | | | |
| | | | 演習Ⅰ | | 2 | ○ | | | | | | | | |
| | | | 演習Ⅱ | | 2 | | ○ | | | | | | | |
| | | | 演習Ⅲ | | 2 | | ○ | | | | | | | ◎ |
| | | | 演習Ⅳ | | 2 | | ○ | | | | | | | ◎ |
| | | | 演習Ⅴ | | 2 | | ○ | | | | | | | ◎ |
| | | 国際協働論 | 特論 | | 2 | | | ○ | | | | | | |
| | | | 演習 | | 2 | | | ○ | | | | | | |
| | | コミュニティ論 | 特論 | | 2 | | | ○ | | ◎(1) | | ◎(1) | | |
| | | | 演習 | | 2 | | | ○ | | | | | | |
| | | サービスマネジメント論 | 特論 | | 2 | | | ○ | | ◎(1) | | | ◎(1) | |
| | | | 演習 | | 2 | | | ○ | | | | | | ◎ |
| | ウィメンズヘルス | ウィメンズヘルス | 特論Ⅰ | | 2 | ○ | | | | | | | | |
| | | | 特論Ⅱ | | 2 | | ○ | | | | | | | |
| | | | 特論Ⅲ | | 2 | | | ○ | | | | | | |
| | | | 演習Ⅰ | | 2 | | ○ | | | | | | | |
| | | | 演習Ⅱ | | 2 | | ○ | | | | | | | |
| | | | 演習Ⅲ | | 2 | | | ○ | | | | | | |
| 実習 | | | | | 6 | | | ○ | | | | | | |
| 課題研究 | | | | | 2 | | | | ○ | | | | | |
| 特別看護研究 | | | | | 8 | | | | | | | | | |
| 履修合計単位数（必修単位のみ） | | | | | | | | | | 6 | 6 | 1 | 1 | 8 |

上級実践コース＜助産学＞必修科目（22単位），他に選択科目10単位、計32単位

助産師国家試験受験希望者が，修了要件のほかに必要な科目（22単位）

**表２　大学院修士課程ウィメンズヘルス・助産学の核となる概念**

| |
|---|
| 1）Women-centered Care（女性を中心としたケア）の中心概念は，「尊重」「安全」「意思決定」「エンパワー」などの要素を核とする，つまり個人としての対象を尊重すること，対等の位置に立つこと，そして，相手を脅かさないケアを行うこと，女性とともにある協働の立場にあることのできる人材の育成をめざす。 |
| 2）Evidence Based Practice を可能にし，ケアを創造できる人材の育成をめざす。 |
| 3）実践―研究―教育が真に有機的に連携できる人材の育成をめざす。 |
| 4）Problem Based Learning を通じて自分で問題解決する力をもつ，変革者としてリーダーシップを取っていく人材の育成をめざす。 |
| 5）自律した実践家・起業家の育成をめざす。 |
| 6）国際的に活躍できる人材の育成をめざす。 |

試験受験を希望するものは，修了要件32単位のほかに，指定された科目の22単位の，計54単位を履修する。

教育課程の核となる概念は，以下の６項目を柱とする**(表２)**。

学部助産課程は，2004年度入学生までは４年次の助産課程を開講するため，大学院修士課程（助産学の上級実践コース）と2005年より2007年までの３年間は教育が重なり，学部と大学院とで２つの助産師学校が併存する。

## Ⅲ．姉妹校オレゴン・ヘルスサイエンス大学（OHSU）との連携

### １．OHSU からの招聘（2004年８月）

大学院修士課程での助産教育を考える上で，Advanced Practice 教育で先行する米国カリキュラムに学ぶ機会を得た。2004年８月17日から８月21日にかけて，OHSU から，大学院 Nurse-midwifery コースの創設に関わった Dr. Carol Howe を招聘した。姉妹校である OHSU とのコラボレーションを通して，共同研究，情報交換等を活発にするとともに，学生の交流や教育資源の拡大を願った。

セミナーの内容は，まず，OHSU で行われている Nurse-midwifery program の紹介，当大学で実施予定のプログラムの紹介とコメントをいただいた。続いて，特別講義「アメリカの助産実践」についての講演を企画した。また，助産の学部教育において学内で行っている分娩介助の演習の見学，最後は，開業助産所を訪問した。

初日は，資料に従って，OHSU の助産課程のカリキュラムについて，それぞれの科目内容の解説を受け，質疑応答となった（**資料１**，文末に掲載）。大学院２年間のカリキュラムの中で，３学期制からなる80単位を取得する（講義：１単位を，１時間／週の10週間で算出。実習：１単位を，３時間／週の10週間で算出。つまり，日本の単位に換算すると約54単位となる)。学生は１学年10名程度で，３名の大学専任教員と７名の臨床教員で担当している。カリキュラムに関しては，１年目で，Advance Practice Nurse として中心となる科目を修得する。研究法と文献から明らかになった Evidence-based Practice の実践適用，生理学，フィジカル・アセスメント，妊娠・分娩・産褥におけるケアとマネジメント，コンサルテーション，処方権の取得に連動した薬理学などがそれに当たる。２年目には，薬理学に加え，異常や合併症のケア，新生児のケア，分娩介助を主とした臨床実践，研究が配されている。臨床実習では，学生はそれぞれ１名ずつ各クリニックや病院に配置され，分娩介助は学生１名当たり30－50例を目標に介助するという，教育基準を設定するアメリカ看護助産協会（ACNM：American College of Nurse-midwives)[5]の規定を上回る，より実



**写真１　Dr. Howe とのディスカッション**




**写真２　Dr. Howe の特別講演**



写真３　Dr. Lowe との研究交流



写真４　助産師たちとの交流

践に力点をおいたカリキュラムであることがうかがえた。

続いて，当大学の助産上級実践コースのカリキュラムについて説明した。この中で，国際協働論（選択）に関しては，科目内容や単位認定システム等についてディスカッションを行い，OHSU との協働での開講を検討した。

翌18日は，「アメリカの助産実践」についての特別講義を学外にも公開して行った。アメリカ合衆国での助産の定義や免許，教育の変遷，州による相違，コア・コンペテンシー，ACNM による教育の認証評価機構，処方権，助産実践等，助産を取り巻く広い領域で話された。

また，助産実習に出る直前の学部の助産学生の演習を見学した。ベッドにファントームを寝かせ，本番さながらの分娩介助をする学生たちの演習風景を見て，模型を用いた事前学習に Dr. Howe は感嘆していた。OHSU では，学内の演習はほとんどなく，クリニックや病院などでの実際の妊産婦を前にした実践を展開するとのことであった。

最終日は，学生の臨床実習の一端を担っている開業助産所を訪問した。Dr. Howe は自宅のような暖かい雰囲気の助産所に感心しつつ，天井から下がっている紐をさして，「これはどのように使うのか」と尋ね，分娩台のない部屋で分娩する場所を尋ねたり，１週間滞在する産褥の部屋を見学した。異文化のお産のあり方を体験して，非常に興味深そうな様子だった。

## ２．OHSU への訪問（2005年２月）

2006年前期開講予定の「国際協働論演習」について，助産上級実践の演習の可能性を見出すためと，助産の教員間の研究交流という目的で OHSU を訪れた。「国際協働論演習」は，異なった文化的背景をもつ場で，その地域の専門家と協働して，妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児，その家族の健康を守るための活動を学び，効果的なケアを考察することを目標とする。事前の Dr. Howe とのメールのやり取りを通して，助産活動および助産の周辺の専門職の活動を見学するために，OHSU の助産学生の実習施設を中心に訪問プログラムを設定した。日程は2005年２月17日から25日まで，助産の教育に携わっている４名の教員（有森，小陽，土屋，江藤）と博士課程の学生１名（太田）で訪問した。

初日は，学部長 Dr. Potempa の歓待を受け，Dr. Howe に導かれ，OHSU 看護学部構内および大学に連結する付属大学病院，小児を専門とする Doernbecher 病院ツアーを行った。この OHSU Marquam Hill Campus には，クリニックや各診療領域の医療施設が集まっており，医療分野の教育と実践が効率よく，密接に関わっていた[6)]。

翌日からは，それぞれのメンバーが分散して，実習施設については，産科棟，助産クリニック，乳房ケア，遺伝クリニックなど，それぞれ複数の施設を視察した。産科棟は，OHSU 付属の大学病院で，２フロアー分の領域を占めていた。訪問したとき分娩に立ち会う機会はなかったが，入院する50%がスペイン語圏の産婦であること，医療提供者が助産師，医師のいずれも費用は変わらず（約＄3,000），約40件／月の分娩介助にあたるとのことだった。また，学生と教員の共通の記録室では，分娩介助26例目を終えた助産学生と臨床教員がケースのレビューを行っており，産婦の詳細な経過報告と今後の計画を打ち合わせていた。ケースは若年妊婦で，複雑な家族背景をもっていたが，あたかも，助産師仲間同士で話し合われるような，充実した内容であった。

助産クリニックでは，OHSU 付属病院，St. Vincent's，Providence，Sellwood 等の複数の施設を見学した。それぞれの施設に，助産学生は１名ずつ配置され，臨床指導者の助産師とともに助産を行う。そのうち，St. Vincent's は，年間6,000件の分娩を扱う大きな病院であるが，助産師によるケアは40件／月程度である。外来は４つのユニットがあり，１つは助産師で，残る３つは医師（医師も３つのチームに分かれている）によって担当されている。この病院に通う女性は，助産師

か医師に受診するかを決め，それぞれの妊婦健診を受ける。医療アシスタントがいて，血圧，尿検査，体重測定をし，カルテ管理や女性の誘導，予約等，外来をスムーズに進めるための役割を担っていた。乳房ケアは，ラクテーション・コンサルタントによって，必要や希望に応じてケアを行っていた。ラクテーション・コンサルタントは，必ずしも助産師でない場合もあり，一定のコースを受けて，そのライセンスを取得する。単独では保険がとれないので，病院の中で活動している。人形を用いて乳房の吸啜の仕方や抱き方のバリエーション，搾乳器械を用いた搾乳の仕方等，１時間ほどかけて実施していた。１回あたりの費用は，＄70－90ということであった。また，遺伝カウンセラーが行っている遺伝クリニックにも参加し，許可をとって，実際の遺伝カウンセリングの場面に参加させていただいた。家系図を描き，パンフレットを用いて病気の発生や内容に関してていねいに説明していた。このユニットは，Prenatal Unit と標榜された小児病院の一角にある。精査の必要なケースが超音波検査を受けに来院する。遺伝カウンセラーは看護職ではなく，月あたり45－70件のカウンセリングを行っているとのことであった。ラクテーション・コンサルタント，遺伝カウンセラーは助産師ではなく，その領域のことを専門に行う人々で，医療の分業化が進んでいるアメリカの実態を垣間見ることとなった。

また，多くの研究者たちとミーティングもアレンジしてもらった。Dr. Nancy Lowe は助産のファカルティスタッフの一人で，主に研究に携わっているが，月２回の助産クリニックも担当している。最新の研究について話をうかがった。Dr. Pam Hellings は，小児のナースプラクティショナーで，ラクテーション・コンサルタントのライセンスももつ助産師であった。国策である母乳推進プロジェクト WIC（Women's infant and children）について話してもらった後，日本の母乳ケアについてビデオを示しながら紹介し，相互のケアについて意見を交換した。Dr. Jillian Romm は，Perinatal loss のカウンセラーで，日本でも数年前から注目されてきた死産あるいは子どもを亡くした両親へのサポートを行っている。リサーチ・エビデンスを紹介しながら，デリケートな現場の状況を話してくれた。Dr. Kathy Shelton は Child Development & Rehabilitation Center の管理責任者であり，アメリカ全土を網羅した保健師のトレーニングプログラムや子どもの発達を把握するシステム等，活動と研究の一端を紹介してくれた。OHSU の豊かな人材はリソース・パーソンとして，協働を進める上でも，たいへん重要な位置を占めると考える。

助産師同士の交流として，助産活動を紹介する場が設けられた。準備していったのは，日本の開業助産所の活動，乳房ケア，子どもを亡くした両親へのケアについてであり，スライドやパワーポイントを用いて示した。集まってくれた助産に携わっている人たちは，助産師(Nurse-midwife)，レイミッドワイフ（伝統的産婆)，自然療法家と多様であったが，一様に日本の独自の助産師活動に多くの質問と賞賛のことばをかけてくれた。

10日間の滞在で，多くの施設の見学とリソース・パーソンとなる仲間たちと出会い，たいへん実り多い時間を過ごすことができた。

## Ⅳ．今後の展望

1967年以降，38年間続けてきた学部の助産教育であるが，近年の社会状況（少子高齢化による次世代育成の課題）や医療化の進行，助産師に求められる役割と機能の拡充の必要性に際し，大学院修士課程での教育へと新しい道を歩み始めた。ウィメンズヘルス・助産学専攻は，それぞれ【研究者コース】と【上級実践コース】の履修モデルがあり，【研究者コース】は，従来に続き，さらに質の高い，実践を変革へと導くような研究を究め，【上級実践コース】は，助産の実践化として，より深く広く実践活動に取り組み，有用なエビデンスを開発・活用できるような履修の場としたい。特に，上級実践となる人々には，２年間の教育期間の中で，世界中から発信される新たな情報の集約と実践の場を多くもつことで，国内で実力をもった助産師として活動が展開できるように，教育の質も高めていきたい。

他方，国際母子保健の向上に貢献できる人材の育成も進めたい。今回は，助産の大学院コースとして先発である OHSU との国際交流協定により，カリキュラムの作成から，実習場の見学を通して示唆を得た。このような，有機的連携を図りながら，多方面で，助産師としての国際的な活動を発展させていけるような教育環境を提供したいと考える。

助産の将来を見据えながら，常に前進と変革をいとわない，大望のある専門職の育成ができることを願っている。

## Ⅴ．おわりに

今回，大学院修士課程ウィメンズヘルス・助産学コースの開設に伴う数年間の活動を振り返り，あらためて多くの人々の支援を受けてスタートできたことに対して感謝するとともに，また，市井の人々の医療の質を求める動きと時流の後押しを強く感じた。誕生したばかりの本コースを大切に育みながら，先をみつめつつ，常に前進していきたいと考えている。

**謝　辞**

聖路加看護大学ミセス・セントジョン記念教育基金を受け，オレゴン・ヘルスサイエンス大学から助産のカリキュラムの創設に関わった Dr. Carol Howe を招聘することができました。このような貴重な機会を得，多くの示唆を得て実りある時間をいただけましたことを，心より感謝いたします。

また，今回，本学と OHSU の架け橋として労をいただいた，前客員教授の Dr. Sarah Porter に深く感謝致します。

**引用文献**

1）聖路加看護大学大学院将来構想プロジェクト．６．社会人受け入れコースなど大学院拡充構想．聖路加看護大学大学院将来構想プロジェクト2000年４月～2003年３月報告書，2003，57－61.

2）菱沼典子．大学院の設置から今日まで．聖路加看護大学大学院開設20周年．2001，22－28.

3）聖路加看護大学．5.2005年度以降の大学院のあり方．聖路加看護大学年報2003年度（平成15年度），2003，44－45.

4）聖路加看護大学．5.2005年度以降の大学院のあり方．聖路加看護大学年報2004年度（平成16年度），2004，41－42.

5）アメリカ看護助産協会
（ACNM：American College of Nurse-midwives）
http://www.midwife.org/［2005-11-01］

6）オレゴン・ヘルスサイエンス大学看護学部
(OHSU：Oregon Health Science University, School of Nursing)
http://www.ohsu.edu/son/［2005-11-01］

Student:　　Faculty Advisor:

Draft: NMW Competing Continuation Submission　　Date reviewed:

*Post-Masters take only starred (*) courses*

OREGON HEALTH & SCIENCE UNIVERSITY SCHOOL OF NURSING
Nurse Midwifery Master of Science Degree Program of Study-Full-Time Plan PORTLAND CAMPUS
2003-2005

| YEAR 1 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Course | Fall Term | CR | Course | Winter Term | CR | Course | Spring Term | CR |
| N510 | Research Methods and Applications for Evidence Based Practice | 4 | N512 | A Critical Analysis of Health Disparities | 4 | *N515B | Advanced Physiology & Pathophysiology II | 3 |
| *N517 | Health Assessment/Physical Diagnosis for Advanced Practice Nursing | 4 | *N515A | Advanced Physiology & Pathophysiology I | 3 | *N519A | Applied Pharmacology I | 3 |
| *N518 | Reproductive Health Care Mgmt | 3 | *N584 | Antepartum & Postpartum Management | 4 | *N581 | Nurse-Midwifery Mgmt of the Intrapartum Period | 3 |
| *N583 | Foundations of Midwifery Care during the Reproductive Cycle | 4 | *N509L | Practicum in Antepartum and Postpartum Management | 2 | *N509M | Practicum in Nurse-Midwifery Mgmt of the Intrapartum Period | 3 |
| | Total | 15 | | Total | 13 | | Total | 12 |
| Course | Summer Term | CR | | | | | | |
| N5XXX | Fundamentals of Teaching Nurse-Midwifery Students | 3 | | | | | | |
| | Total | 3 | | Total | | | Total | |
| Course | Fall Term | CR | Course | Winter Term | CR | Course | Spring Term | CR |
| *N519B | Applied Pharmacology II | 2 | *N582 | Management of the Newborn | 3 | *N509Q | Advanced Practicumin Nurse-Midwifery | 8 |
| *N522 | Advanced Practice Nurisng Roles and Issues | 2 | *N585 | Primary Care for Nurse-Midwives | 4 | | | |
| *N588 | Advanced Women's Health Care Mgmt | 2 | *N509P | Practicum in Nurse-Midwifery Mgmt II | 4 | | | |
| *N509N | Practicum in Nurse-Midwifery Management I | 3 | *N509Y | Primary Care Practicum for Nurse-Midwives | 1 | | | |
| *N509O | Practicum in Advanced Women's Health Care Mgmt | 2 | N503 | Master's Research/Practice Improvement Project | 3 | | | |
| N503 | Master's Research/Practice Improvement Project | 3 | | | | | | |
| | Total | 14 | | Total | 15 | | Total | 8 |
| | | | | | | | TOTAL CREDITS | 80 |